

生活と政治をつなぐ情報紙

生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.266

2013.11.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

生活者ネットワークは、「市民が平和のイニシアティブをとる」ことを基本理念としています。「軍需産業の平和産業への転換を積極的に促進する」「国家機密法、有事立法に反対する」、これらは1990年代にネットが打ち出した基本政策の平和に関する一部ですが、憲法改悪、原発容認を公言する政治勢力を擁する安倍晋三政権の下で、特定秘密保護法案が急浮上し、米軍岩国基地を中継基地とするMV22オスプレイの本土訓練も画策されています。自治体から主権者・市民がつくる安全・平和についてしっかりと議論し、行動していくときです。

東京・生活者ネットワーク運営委員
／江戸川区議会議員 ●**新村 井玖子**



キャンドルデモで反核・反戦をアピールする江戸川・生活者ネットワーク区議の新村井玖子(前列右端)。2013年8月6日

憲法を生かす 市民が平和のイニシアティブをとる

反核・反戦、自治体から主権者・市民がめざす世界の恒久平和——江戸川発

江戸川・生活者ネットワークは地域の労働組合が中心となつてつくれた「江戸川平和運動センター」の幹事団体として20年以上にわたつてヒロシマ・ナガサキの被爆者団体や戦争体験者らと共に活動を重ね、「反核・反戦キャンドルデモ」や東京大空襲の被災地を巡る「戦災慰霊碑巡り平和行進」「東京大空襲・江戸川区戦没犠牲者追悼式」などを主催してきました。

憲法についても、06年第一次安倍内閣で高まった改憲論議を機に江戸川区在住・在勤の市民らが憲法を再確認しようといふことと始めた「江戸川憲法を読む会」に事務局として参加しています。会では、条文の理解に限らず憲法が実際の現場ではどういう状況になっているか、教育問題や原発問題など幅広い視点で定期的に、不断に学習会を開催。昨今の改憲論議においては、大学教授やジャーナリストらによる講演会や元教師による教科書での憲法の取り上げられ方など多

角的に憲法を知る場を提供し、参加者と共に議論するだけでなく、若い人たちの参加を促したいと情報発信も行っています。

自民党改憲草案を問う 立憲主義・平和憲法が危ない

一方、安倍首相と自民党はその改憲草案で、現行憲法前文にある「恒久平和」は、ユートピア的発想で自衛権を放棄するものとして削除。9条の改定、96

条見直しも国民に受け入れられない状況の中、「積極的平和主義」を掲げることで集団的自衛権見直しの拠りどころにしようとしています。「安全保障と防衛力に関する懇談会」に諮っている集団的自衛権に関する4項目は、①同盟国を狙った弾道ミサイルを撃破②共に行動している同盟国の艦船が攻撃されたら自衛隊が反撃③PKO活動中の他国軍が攻撃された場合、自衛隊も戦う④燃料補給・物資の輸送などの後方支援——。これらが認められてしまうと、日本

が「同盟国を支援するため」と主張しても、相手からすれば「攻撃」です。日本を敵とみなし反撃してくることは充分考えられます。つまり、日本が戦争に巻き込まれる事態を生じることにつながりかねないのです。

安倍首相はこれを実行するための法整備に着手。安倍政権下の有識者会議(安保法制懇)では、国家安全保障戦略の策定や防衛計画大綱の見直しが行われており、改憲へと続く道筋を画策しています。集団的自衛権の行使容認の報告書の年内提出は見送ることとしたとされていますが、先送りしたに過ぎません。憲法問題は国民的議論にし、私たち一人ひとりが考えていかなければならない問題です。そもそも日米安保条約、中でも日米地位協定を抜きに改正論議はできません。私たちは、歴史への理解、平和・市民教育を進め、非核・非暴力、共に生きる世界を足元から実現するための広範な議論を開始します。

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
ホームページ http://www.seikatsusha.net
発行責任者 西崎光子
定価 年間1000円・1部100円
郵便振替口座 00130-3-18417

都 第4回定例都議会の開催(11月29日～12月13日)。「新たな長期ビジョン(仮称)」中間発表。「新型インフルエンザ等行動計画」策定。

ネット ●葛飾 11月3日(日)告示、10日(日)投票の葛飾区議会議員選挙に、新人の渋谷えみこを擁立予定
●小平 民主主義を底上げ!市民のための政治の使い方連続講座 女性の政治参画～女性の力を女性自身が信じよう 11月16日(土)13:30～ 小平市中央公民館 講師:武田万里子さん(津田塾大学教授) 参加費500円
●府中 DVD上映会「小さな町の小さな映画館」11月17日(日)10:30～ 府中ネット事務所
●江戸川 秋の荒川クリーンエイド&アダプト活動 11月17日(日)10:00～ 荒川右岸・船堀橋上流(集合:小松川千本桜公園)清掃、ごみ調査、投網による生き物観察、外来種除草
●杉並 映画「ワーカーズ」11月24日(日)①11:00～②14:00～③17:00～ 高井戸地域区民センター 前売り800円 ペア割引1500円 当日1000円 主催:映画「ワーカーズ」上映を成功させる会
●府中 わくわくサロン 11月29日(金)14:00～ 府中ネット事務所

あんてな

チマ・チョゴリ友の会の活動 ～在日一世と家族の肖像写真展～ 松野哲二

市内には朝鮮学校が10校あり、約1700名の生徒が通っている。東京都は補助金を停止、高校生は政府の無償化制度からも排除されヘイトスピーチの暴力にさらされている。

私たちは15年前から立川市と町田市にある朝鮮学校を支援してきた。かつて言葉も文化も命も剥奪し地図からも亡くした朝鮮半島。今は日本の地でその文化を育む子どもたちと地域の隣人として仲良くしたい一心からだ。5年前から子どもたちのルーツである一世の皆さんの記録を綴ってきた。在日のあり様は日本社会を映す戦後史の一つであり日本人にこそ接してほしいと4年前から地域に公開展示。立川、町田、

小平と巡り、今年は八王子市で開いた。

八王子で平和、人権の課題で活動する有志の皆さんと一緒に準備し、大阪を始め各地の6人の一世にお会いし貴重な写真と共にそのお話を新作パネルにまとめた。なかでも、一世が働いた八王子の浅川地下壕の記録、あるいは在日二世ミュージシャン朴保がアボジを語る企画は生活者ネットのメンバーが担当し、注目を集めた。初日9月21日の朴保講演会は即興ライブありで会場を沸かせた。全体で60人の一世の紹介と500枚の写真を使った100枚のパネルを展示、2日間の来場者は250名。戦後通名で暮らしてきた来場者の女性は、「一世の父が寝たきりになり、何故か自分に思い出の品を託した。最近無性に自分のルーツ、父のふる里が恋しい」と涙ながらに話した。この活動の真髄に触れた思いがした。

[チマ・チョゴリ友の会代表]

八王子での展示風景。同展示は▶11月16～18日アミダステーション(八王子市東町3-4)▶11月24日府中公園(京王府中駅北口6分)の朝鮮文化とふれあうつどい会場——に巡回する

